

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム里の家平岸 ぽぷら	評価実施年月日	平成20年6月1日
評価実施構成員氏名	田中 豊治 渡辺 弘 森本 繁子 大津 里美 広田 純子	大門 祐介 得能 りつこ	
記録者氏名	田中 豊治	記録年月日	平成20年6月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>理念に、沿ってケアや介護計画の作成に努めている。地域の方々と共に暮していけるよう、サービスの提供継続行っており、年々地域との関係が向上している事を感じる。</p>	○	今回から新たにもう一つの理念を掲げたので今まで以上に地域に密接した関係作りを町内の行事参加で行っていききたい
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>毎朝申し送り後に理念を言い合うことで、理念のもとで支援を行う体制作り、共有を図ることで理念からズレないような意識作りを確認しあっている。。</p>	○	日頃の取り組みや関りについての評価や見直しを定期的に行っていく。また、管理者は必要に応じ理念に沿ったアドバイスは今以上に行っていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>毎月「里の家だより」を発行し、また地域の説明会も実施している。地域の方に過度の宣伝行為と受取られない程度で定期的な町内の集まり等で説明を行っている。また、ホーム内の見学案内の際にも理念について触れ、ホームの目的や機能についても説明を行っている。</p>	○	地域の方に過度の宣伝行為と受取られない程度で定期的な町内の集まり等で説明を行っている。また、ホーム内の見学案内の際にも理念について触れ、ホームの目的や機能についても説明を行っている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>町内会の行事への参加や運営推進委員会等でも連携が深まっている。また町内会祭り時には、休憩所としても駐車場を開放している挨拶は随時行っており、気軽にお話が出来る関係が築けている。ホーム内への立ち寄りにはまだ気軽さは伺えない点もあるが、玄関回りの清掃及び飾付け、ガーデニング等でも立寄り易さの工夫に努めている。</p>	○	隣近所の方々と交流を更に深め、全職員が自然に気軽にご挨拶出来るよう努めている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>見学者の要請があれば随時受け付けている。また散歩や買い物に出掛けた際は気軽に挨拶を心掛け地域の行事等へも積極的に参加するようにしている</p>	○	認知症で困っている方がいればいつでも当ホームに相談しに来れるような関係作りを目指していきたい
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>年に一回全ホーム参加のお祭り(里の家祭り)を開催し地域の方々の参加を行っているが開催場所は当ホーム敷地内ではなく系列法人施設敷地内(北広島市地区)で行う為、近隣在住の家族様のお越しいただけるよう、また同行していただけるようにしている。※当ホームではスペース的に難しい現状</p>	○	開催場所は当ホーム敷地内ではなく系列法人施設敷地内(北広島市地区)で行う為、近隣在住の家族様のお越しいただけるよう、また同行していただけるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>全職員で内部研修として各自評価、報告を行い、全職員がその評価内容を把握し評価を活かしている。要改善、改善が必要な項目は、運営者、管理者、全職員と相談し早急に改善していくようにしている。</p>	○	要改善、改善が必要な項目は、運営者、管理者、全職員と相談し早急に改善していくようにしている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議で提案等があった場合は、その内容を本社及び現場で十分検討し可能な限り取り組みに盛り込めるよう努めている。</p>	○	話し合いの中で挙げた様々な意見を更に積極的に実施し、近隣への参加呼掛け等も推進していく事で運営推進会議の内容が実際に活かされている事を知って頂くよう努めていく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>管理者は、札幌市の管理者会議や区の連絡会に積極的に参加しサービスの向上に努めている。今後は管理者だけでなく他の職員が管理者会議、連絡会に参加できるように考えている。</p>	○	今後は管理者だけでなく他の職員が管理者会議、連絡会に参加できるように考えている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>今現在制度を活用している利用者様がいるので実際に肌で学ぶ機会にもなったが、全職員が把握し活用できるまでには至っていない。</p>	○	今以上に全職員の理解を深める為、都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>全職員は、法について理解し活用できるが、今現在制度を活用している利用様はいない。今迄に虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行えているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止に努めていく。</p>	○	今迄に虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行えているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止に努めていく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>利用者様や家族様にご理解、ご納得して頂くように十分な説明を行っている。</p>	○	特定の職員だけでなく、全職員が同じく家族様の方々に接し、不安等をお聞きし安心して頂けるよう関係が築けるように取り組んで行こうと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	全職員が、苦情を受け付ける事ができ、第3機関についても説明させて頂いている。利用者様、家族様と常に相談や意見、要望を聞き入れ苦情にもすぐに改善、対応できる体制にしている。	○	利用者様、家族様と常に相談や意見、要望を聞き入れ苦情に繋がらないようにしている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	連絡は密接に行っており、面会時には職員が対応したもの「家族対応記録簿」も残している。また、毎月の「里の家だより」を発行し家族様に郵送している。	○	今年から独自に当ユニットスタッフが最近の写真を載せたお葉書を出して近況報告をしている
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様が自由に意見や要望、苦情を言えるような体制を作り改善できるようにしている。家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会事等に聞かれた訴えについても記録として残し対応検討する流れが出来ている。今後も同様の流れと対応を継続していく。	○	家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会事等に聞かれた訴えについても記録として残し対応検討する流れが出来ている。今後も同様の流れと対応を継続していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員意見の反映については、毎週定期的に本部職員が現場に入り各種会議の際及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。	○	入居者様の生活上必要な物品等の設備に関する職員意見が殆どであるが、随時改善対応行っており、より生活し易い空間作りにも努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	特に入居時には管理者やリーダーが勤務に当たるよう調整を行っており、それ以外の特変時についても必要範囲でシフトの組み換えを行っている。しかし、普段日常については原則勤務変更はしていない。	○	現状として入居者様の状況に合わせた職員配置は困難である。しかし、職員全体が可能な限り統一对応を行えるよう指導教育する事で、ケアの質向上を目指している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員異動は基本的には行っていないが、不慮の事故等での一時的な変更はある。職員異動が入居者様にとってダメージと成り得る事は法人として十分理解把握している為、今後も職員と入居者様が馴染みの関係を築けるよう配慮継続している。	○	今迄にも職員異動はあったが、普段よりユニット間の行き来やすれ違い時の挨拶等行っている為、全職員が全入居者様と顔馴染みの関係であり、大きな問題や混乱は伺っていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>本部内による、毎月1回の内部研修を開き質の向上に努めている。また、外部の研修等にも積極的に参加している。また職員の指導教育は基本的に管理者、リーダーが主として行っているが、方針の理解や制度等については本部職員より直接会議で周知されている。</p>	<p>○</p> <p>職員の指導教育は基本的に管理者、リーダーが主として行っているが、方針の理解や制度等については本部職員より直接会議で周知されている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>本部内による、月1回の合同会議で情報交換は行われている</p>	<p>○</p> <p>守秘義務等の兼ね合いもあり中々具体的な内容までは意見交換はなされないが、互いに困っている事や職員の質向上について同じ目線で話し合える関係を築いて行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>懇談会の開催、職員同士で食事に行くなどしている</p>	<p>○</p> <p>今後、互助会だけでなく職員意見が更に聞き入れられる機会を本部で設けていくよう努めている。スペース的な問題は理解出来る為、その他の環境整備等で休憩時間のストレス緩和に努めていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得、個別の実績、勤務状況について本部で評価を行っている</p>	<p>○</p> <p>職員個々の評価を判断する為、日々定期的に本部が現場状況の確認を行っており、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人様から要望や不安事をお聞きし、取り組む努力をしている。家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の聞き取りには困難を極める事もあるが、入居してから密に関りを持つ事で情報収集し、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の聞き取りには困難を極める事もあるが、入居してから密に関りを持つ事で情報収集し、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族様から面会、電話連絡時に要望や不安な事を傾聴し、取り組む努力をしている。初期に築けた信頼関係をより深められるよう、今後も密な連絡体制を継続し、本人様の生活風景や職員対応の疑問点等についても伺っていく。</p>	<p>○</p> <p>初期に築けた信頼関係をより深められるよう、今後も密な連絡体制を継続し、本人様の生活風景や職員対応の疑問点等についても伺っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	「その時何が必要か」を明確にし支援出来るように努めている。相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を元に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も対応継続し、必要支援の見極めを行っていく。	○	相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を元に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も対応継続し、必要支援の見極めを行っていく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所の相談、見学については担当者が家族様と時間を多く設け十分に理解して頂いている。本人様の意思確認が明確に出来る方とそうでない方がいらっしゃるが、特に意思確認が困難な方について満足度や安心感を理解把握する事にも努めている。新たな情報を知り得た場合の迅速な対応について今後も継続し実践していく。	○	本人様の意思確認が明確に出来る方とそうでない方がいらっしゃるが、特に意思確認が困難な方について満足度や安心感を理解把握する事にも努めている。新たな情報を知り得た場合の迅速な対応について今後も継続し実践していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人様の話を傾聴し、共に家事等を行う事で勉強になったり支え合う関係を築いている。お客様扱いではなく人間として、一個人として見つめお互いが支えあう関係作りを念頭に置き生活を共にしている	○	該当する場面を個々人様に対して作り、入居者様が役割があると実感でき、共に支えあう関係作りを支援していく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様には、ご本人様についていつでも相談が出来るように関係を築いている	○	協力的なご家族様とそうではない方との開きはあるが、長く生活を共にし密な連絡体制を継続する事で少しでもケアに関心を抱いて頂けるよう努めていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人とご家族様がよりよい関係が築かれている。ご家族様には伝わらない本人様の思いや意向を職員が汲み取り、分かり易く説明する事で少しでも関係の改善を推進していく。	○	ご家族様には伝わらない本人様の思いや意向を職員が汲み取り、分かり易く説明する事で少しでも関係の改善を推進していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所に出掛けたり、電話したりする事で、今までの関係が途切れないようにしている。馴染みの人や場所の現状等についてご家族様より入居者様に伝えて頂ける等、日常的な会話の中に盛り込まれている。	○	馴染みの人や場所の現状等についてご家族様より入居者様に伝えて頂ける等、日常的な会話の中に盛り込まれている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	少しでも、孤立しないようにホールに来たがらない方や内向的な方などは訪室し孤独感を味わわないように関わっている。トラブルが予想される入居者様方の関係性に配慮し、うまくバランスや距離が保てるよう関わりを持ちながら対応支援を行っている。	○	トラブルが予想される入居者様方の関係性に配慮し、うまくバランスや距離が保てるよう関わりを持ちながら対応支援を行っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居となられる際には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居された後もご家族様が遊びに来て頂ける等の関係が築けている。	○	退居された方が入院されている病院や施設に立寄った際には、可能な限り声を掛ける等の配慮を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれの希望、意向を大切にし生活を支援している。表現する事が困難な入居者様に対して、本人様のバックグラウンドを元に選び易い選択肢を設けたり表情、反応を見て把握に努めている	○	グループホームとしてできる最大限のサービスを元に多角的な視点から把握し希望を実現させていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	それぞれの、個性を大切にし、それぞれが生活できるよう支援に努めている。	○	サービス利用、入院歴等については把握しているものの、どのような治療を行ったのか等について一部具体的ではない為、今後更に具体的内容の把握に努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎朝のバイタルチェック、ご本人からの体調確認など常に入居者様一人一人、心身状態の変化を観察し把握していくように努めている。	○	毎日の血圧、体温、脈、排泄チェック、水分摂取量、体重チェックを行い日々の個人の表情、状況変化を記録に残し情報共有に取り組んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ユニット会議で意見を出し合い作成している。またご家族様には面会時に相談し、その旨の署名を頂ける様にしている。今後も入居者様の意志希望を中心に多くの意見やアイデアを計画に反映していく。	○	今期からセンター方式のアセスメントツールを採用している。今まで隠れていた情報を収集しながらプランに反映させていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	実施している。3ヶ月毎に更新している。職員間の意見だけでなくご本人、ご家族さんの要望を確認しながら介護計画の見直しをしている。	○	職員間の意見をだし介護計画の見直しをしている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々の目標も明記できるようになっており、プランの反映を意識している	○	入居者様を様々な側面から見て、より具体的な個別記録となるよう努めていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	柔軟なサービス提供に努めている。	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ているが、まだ十分に要望等を引出せているのか判断が難しい為、今後も継続して関わりを深める対応に努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防などにはアドバイスを頂いている。ご本人の意向を地域資源に結びつけるとなると出来ていないことが多い。	○	開設時から徐々に地域に根ざした感実感としてある。地域の方々からの呼掛けや、他事業所側からのお誘いで円滑な交流が行なわれるようになっている。これから入居者様意向の実現を社会資源に結び付けられるようにしていきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者様の身体能力に応じて、必要なサービスが受けられるように家族様に情報提供と相談助言を行っている。同法人で運営する他事業所のケアマネージャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。	○	同法人で運営する他事業所のケアマネージャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じ、包括支援センターの方からのアドバイス等受けられるようになっている。具体的内容の話になるケースはまだ少ないが、必要性に応じて協働していく考えである。具体的事例がまだない為判断は難しいが、今後も運営推進会議内だけでなく、その必要性に応じ随時協働して頂けるよう関係を深めていきたい。	○	具体的事例がまだない為判断は難しいが、今後も運営推進会議内だけでなく、その必要性に応じ随時協働して頂けるよう関係を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	入居時にご家族様の要望を聴取している
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	○	医師と相談している
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	○	夜間緊急時に24時間対応できる体制となっており今後も取り組んで行きたい
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	○	担当医師とよく相談の上、早期退院の方向で話し合いを行っている
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	○	今後、更にターミナルケアを望まれる方が増える事が予想される為、職員個々の知識や技術の向上に努め、いかなる場合においてもスムーズにターミナルケアが行える状態であるよう日々スキルアップに努めていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	チームケアの向上については様々な要素があり、個々の能力、職員間の声掛け、情報収集、情報共有その他にも多々あるが、これらが全て円滑に出来、十分な内容が伴う事でチームとして力を発揮出来るという事を今後も職員指導の一環として行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居時の精神的な不安やストレスを軽減出来る様、本人様の関係者と十分な情報交換を行い支援を行っている。ダメージを防止する為にご家族様やその他関係者と連携を深めていく。</p>	○	<p>今後もダメージを防止する為にご家族様やその他関係者と連携を深め支援を行っていく。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様一人一人の尊厳を大切にする対応を心掛けている。個人情報に関しても固有名詞などには細心の注意を払っている。今後も相手の立場になり考える姿勢を忘れずに取り組んでいく</p>	○	<p>今後も相手の立場になり考える事や、尊厳を持って接する努力を行っている。また、職員間の無駄な会話を改善するチェック表等利用していきたい。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者様の意思を尊重して、日々の様々な事柄について1つのみでなく2～3種類を用意してその中から選んで頂いている。また利用者様に聞き希望を取り入れ叶えられるように取り組んでいる</p>	○	<p>利用者様に聞き希望を取り入れ叶えられるように取り組んでいる</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々の生活スタイルを保ちながらも共同生活としての最低限の規律も尊重しながらそれぞれ様々な場面で力を頂いている。今後も個人様様の生活ペースを大切にしながら本人様の希望に沿った毎日を送れるよう支援させて頂く。</p>	○	<p>今後も個人様様の生活ペースを大切にしながら本人様の希望に沿った毎日を送れるよう支援させて頂く。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>提携している床屋があり必要に応じて来て頂いている。また、行きつけの美容室がある方もいるのでそのような場合はご家族さんとの調整をして行ける様にしている。</p>	○	<p>本人の希望に応じて支援している</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>利用者さんと一緒に食事を摂り、会話しながら楽しめるよう職員が利用者さんの間に入り一緒に食事をしている。</p>	○	<p>片付けなどは定着しているが調理の部分に関してはまだスタッフ間で継続性が保てないため今後の課題。まだまだできる方がいると思うのもっと深くアセスをとりながら一人ひとりの能力を引き出していきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の好む食物、飲み物などはある程度把握して表にまとめている。提供する際に、例えば納豆は混ぜないで欲しい人がいるので他の人と分けて調理するなど配慮している	○	喫煙についてはホーム内禁煙となっており、全入居者様及びご家族様に事前説明を十分に行う事でご理解頂いている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンや間隔等についてチェック表をつけており、行動事前にさりげなく促す事に役立っている。記録等でのチェックはしているが必要以上の支援は行わないのを基本としている。	○	排泄は自立しているが観察は必要なので今後も記録に残すことで観察していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ある程度の目安が必要のため、曜日や人数を決めているが順次、状況に応じて柔軟な対応はしている。また、ゆっくり入浴できるようにそれぞれの希望、例えば同性介助など取り入れている。大事にしていることは決して業務的な入浴にはならないように少し時間を多く取って対応している。※あくまで状況によるが	○	ゆっくり入浴できるようにそれぞれに応じて取り組んでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中での活動性を高める働きかけを行っておりメリハリのある生活リズムを心掛けている。休息についてもソファーや居室で休んで頂く等、個別対応を今後も継続していく。	○	休息についてもソファーや居室で休んで頂く等、個別対応を今後も継続していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様一人一人が楽しめるような色々な事柄への参加を促している。入居者様の気分転換になるよう外出する機会をおおしく要望も取り入れている。	○	今年からセンター方式と取り入れており生活暦の深いアセスメントができることに繋がるので今後、それを生かした支援に取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭トラブルの防止する上で、まとまったお金に関しては殆どの方がこちらお預かりしているがお小遣い程度の金銭は皆さんご自分で持っている。	○	管理出来ない方にも買い物等に出かけた際には本人様の財布に金銭を入れ自身で支払をして頂く等、安心や自信に繋げる支援を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	整骨院受診を利用しているため日曜以外は殆ど外出されている。冬期間は身体的に大変で比較的ホーム内にいる日が多くなる方もいるが、安全面に配慮しながら可能な限り希望に沿った外出機会を持てるよう行事等を利用し努めている。	○	冬期間は比較的ホーム内に閉じこもりがちとなる為、安全面に配慮しながら可能な限り外出機会を持てるよう努める。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないうちに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出する時は利用者様から希望を聴取している。外出行事については少しでも喜んで頂けるよう、安全面、トイレの有無など必ず下見に行く。また、ご家族さんにも参加を促し参加していただいている	○	外出行事については少しでも喜んで頂けるよう、安全面、トイレの有無など必ず下見に行く。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望に応じて手紙やTELなどいつでもできるよう支援している。	○	本人の要望がなくても寂しそうな表情、困っている様子が見られて時職員から連絡を促している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの人達がいつでも気軽に来やすい雰囲気作り、笑顔の対応を心掛けている。今後とも居心地が良くなる雰囲気作り、工夫をおこなっていく	○	個人情報保護法の関連もあるので、知人、友人誰でも気軽にとはいかない現状もある。その都度KYE-Pに家族カードを作ることを了解して対応している
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない理由を理解し、その為に職員はどのような事に注意しなくてはならないか理解している。今後も身体拘束のないケアを実践していく。	○	今後も身体拘束のないケアを実践していく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者様の安全確保を優先するため、やむおえず電子錠をかけている。またその事を、家族様に説明し理解を得ている。	○	時間帯により安全確保した上で開錠出来る環境作りに努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の、プライバシーに配慮し安全への把握に努めている。職員間で声掛けを行い入居者様の様子を把握し、必要な際は迅速な対応がとれるよう今後も努めていく。	○	職員間で声掛けを行い入居者様の様子を把握し、必要な際は迅速な対応がとれるよう今後も努めていく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	各物品、それぞれ定められた場所に置き職員は取り決めている。薬や洗剤、刃物等の注意が必要な物品については、手の届かない高い場所、引き出しの中、扉の中などに保管しているが、必要以上過敏な対応は利用者の日常生活の支障になりえるので極力避けている	○	薬や洗剤、刃物等の注意が必要な物品については、手の届かない高い場所、引き出しの中、扉の中などに保管している
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	火災や救急、応急処置の対応の実施などのマニュアルがあり非常時に備えている。定期的にユニット会議にて確認しあい改善についてもその都度モニターしている	○	改善についてその都度モニターしている
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急処置についての研修は実施されているが、イザ実際起きたときに思った通りの動きができるか不安なところがある。	○	今迄の事故や急変時等の事例を元に、より具体的な対応マニュアル等を作成して行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	身体能力に合わせた避難誘導の優先順位や避難経路を確認しあっているが、地域の協力となるとそこまでには至っていない。	○	近隣の方々の協力体制についても運営推進会議を通して理解が深まってきていると感じる。今後更に訓練の中で緊張感を持ち、実際の災害を想定した様々な状況下での職員対応を養って行きたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個別に実施している。自立支援を行う上でのリスクは特にプライベート空間で発生するケースが殆どであるが、入居者個人様様の生活スタイル等を把握し安全な環境整備に努める事で可能な限りリスクを軽減していきたい。	○	自立支援を行う上でのリスクは特にプライベート空間で発生するケースが殆どであるが、入居者個人様様の生活スタイル等を把握し安全な環境整備に努める事で可能な限りリスク幅を軽減していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>毎日バイタルチェックし常に利用者様一人一人の変化を観察している。毎日の血圧、体温、脈、排泄チェック、1日の水分量、体重チェックなどを行い健康状態をモニターし日々の個人の表情など変化に気づき状況変化に対応している。</p>	○	<p>毎日の血圧、体温、脈、排泄チェック、1日の水分量、体重チェックなどを行い健康状態をモニターし日々の個人の表情など変化に気づき状況変化に対応している。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>薬の情報箋を利用者様一人一人、ファイルに綴じ注意点など分かる状態にあり内容が分かるように工夫している。誤薬を防ぐ為に予薬時間ごとに薬を振り分け、セッティングする職員と予薬する職員とを分けて2重のチェック体制をとっている。</p>	○	<p>誤薬を防ぐ為に予薬時間ごとに薬を振り分け、セッティングする職員と予薬する職員とを分けて2重のチェック体制をとっている。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>便秘予防として水分及び繊維質、果物を多めに摂ってもらっている。食事に野菜を多く取り入れた物を提供している。可能な限り薬には頼らず食改善で対応している。また毎日朝、晩は体操も行っている</p>	○	<p>食事に野菜を多く取り入れた物を提供している。可能な限り薬には頼らず食改善で対応している。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>介助が必要な方には、朝、夕の口腔衛生支援している。自ら歯磨きし、足りない部分は介助をして清潔を保っている。義歯の手入れも保清が出来るかコップ洗浄義歯の汚れを確認している。</p>	○	<p>自ら歯磨きし、足りない部分は介助をして清潔を保っている。義歯の手入れも保清が出来るかコップ洗浄義歯の汚れを確認している。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>個々の疾患に配慮して水分もチェックし全体を把握している。摂取量の少ない方にはお菓子等の補食で対応しており、今後も個別対応を継続していく。</p>	○	<p>摂取量の少ない方にはチョコレートやエンシュア等の補食について対応しており、今後も個別対応を継続していく。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>各感染症のマニュアルを作成し用意してある。インフルエンザに関してはご家族様からの同意の上、予防接種を受けている。</p>	○	<p>インフルエンザに関してはご家族様からの同意の上、予防接種を受けている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p> <p>清潔に気を配っている。夕食後タオルの消毒、まな板の消毒を行っている。又食品も新鮮な物を使っている。</p>	○	<p>夕食後タオルの消毒、まな板の消毒を行っている。又食品も新鮮な物を使っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>玄関周りや玄関に花を飾りプランターを設置し、綺麗にしている。利用者様と共に花壇に水撒きし花の成長を楽しみにしている。</p>	○	利用者様と共に花壇に水撒きし花、作物の成長を楽しみにしている。
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>鉢植えを飾り職員や利用者様が水をやり成長を楽しんだり、鑑賞したりして家庭的な雰囲気を出している。利用者様の飾りたい花、見たい花など職員が用意し綺麗に食卓に飾り良い雰囲気を出している</p>	○	利用者様の飾りたい花、見たい花など職員が用意し綺麗に食卓に飾り良い雰囲気を出している
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>限られた空間内でホール、廊下、応接室と場所場所にソファを設置しており自由に使っている。それぞれが気の合う方々たちと自由に利用している</p>	○	広くゆったりと座り、心地も良くそれぞれが自由に利用している
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>入居時に家族様に説明させて頂き、使い慣れた家具などを入れて頂いている。入居者様の生活スタイルや好みに合わせて自由に使っている</p>	○	入居者様の生活スタイルや好みに合わせて自由に使っている
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>換気は利用者様の状況に応じて随時行っている。夏場は暑さを和らげるよう居室の窓を空け換気している。また、ホールにはクーラーを設置し高温多湿の防止に努めている。冬場は結露防止装置を使用し乾燥対策している</p>	○	夏場は暑さを和らげるよう居室の窓を空け換気している。冬場は結露防止装置を使用し乾燥対策
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>バリアフリーで手すりも設置している。また入居者さまの身体状況のより随時対応している。洗面台は2つあり、車椅子のまま使用できる様下がある。また、視力が弱い方もいるので見えやすい工夫(蛍光シール)をしている</p>	○	洗面台は2つあり、車椅子のまま使用できる様下がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗があった場合、さりげなくフォローし速やかにその原因の排除に努め、落ち着いた生活を送れるよう配慮している。	○	今後も個人様のわかる力を活かし、自立して暮せる環境作りに更に努めていく。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	駐車場で花火、バーベキューをしたり、花壇のお花の成長を楽しんで頂いている。	○	駐車場で花火やバーベキューなどを行い、皆さん大変喜ばれている。又花壇の花、作物の成長などを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input type="radio"/> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

一番大事にしていることは普通でいることです。日常の中で学習療法やアクティビティケアなどに捉われすぎず、認知症はあくまで数ある病気の一つであり、認知症の有無だけでその人の枠組みをつけないことを念頭に支援しています。中核症状、周辺症状の理解をした上で自分たちは今いる利用者をちゃんと見ているのか、病気しか見ていないか、しっかり目を見てその人と向き合っているのかを自問自答しながら支援していくことが尊厳ある人生に繋がるように思います。